公立大学法人名古屋市立大学
令和３年度業務実績に関する評価結果

令和４年９月

名古屋市公立大学法人評価委員会

＜目次＞

年度評価の方法について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

評価結果の記述について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

１　全 体 評 価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

２　項目別評価

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する項目

第１　教育に関する項目　・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

第２　研究に関する項目　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１

第３　社会貢献に関する項目　・・・・・・・・・・・・・・・　１２

第４　国際化に関する項目　・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

第５　附属病院に関する項目　・・・・・・・・・・・・・・・　１５

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する項目　・・・・・・・　１７

Ⅲ　財務内容の改善に関する項目　・・・・・・・・・・・・・　１９

Ⅳ　自己点検・評価、情報の提供等に関する項目　・・・・　２１

Ⅴ　その他の業務運営に関する項目　・・・・・・・・・・・　２３

３　参 考 資 料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

《年度評価の方法について》

公立大学法人名古屋市立大学の令和３年度の業務実績に関する評価については、平成 19 年 1 月 30 日に策定した「公立大学法人名古屋市立大学の業務実績に関する評価指針」（令和元年 6 月 10 日付一部改正）及び「公立大学法人名古屋市立大学の年度評価実施要領」（令和 3 年 2 月 12 日付一部改正）に基づき、以下のとおり評価を行った。

① 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。

② 「全体評価」は、次に掲げる「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価を行った。

③ 「項目別評価」は、次の区分に従ってそれぞれ行った。

- 教育研究の特性に配慮すべき項目については、大学法人から提出された業務実績報告書に基づき、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。
- 教育研究の特性に配慮すべき項目以外の項目については、年度計画の小項目ごとにⅣ～Ⅰの 4 段階で評価を行い、小項目ごとの評価と特記事項の記述をもとに、年度計画の大項目ごとにＳ～Ｄの５段階で評価を行った。

なお、大項目の区分、小項目評価及び大項目評価の基準については、以下のとおりである。

（大項目の区分）

<table>
<tr><th colspan="3">大　項　目　名</th></tr>
<tr><td rowspan="5">Ⅰ
大学の教育研究等の質の向上に関する項目</td><td>第１　教育に関する項目</td><td rowspan="2">教育研究の特性に配慮すべき項目</td></tr>
<tr><td>第２　研究に関する項目</td></tr>
<tr><td colspan="2">第３　社会貢献に関する項目</td></tr>
<tr><td colspan="2">第４　国際化に関する項目</td></tr>
<tr><td colspan="2">第５　附属病院に関する項目</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する項目</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅲ　財務内容の改善に関する項目</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅳ　自己点検・評価、情報の提供等に関する項目</td></tr>
<tr><td colspan="3">Ⅴ　その他の業務運営に関する項目</td></tr>
</table>

（小項目評価の基準）

Ⅳ：年度計画を上回って実施している
Ⅲ：年度計画を順調に実施している
Ⅱ：年度計画を十分には実施していない
Ⅰ：年度計画を実施していない、または大幅に下回っている

（大項目評価の基準）

Ｓ：特筆すべき進行状況（特に認める場合）
Ａ：計画どおり（すべてⅢ～Ⅳ）
Ｂ：おおむね計画どおり（Ⅲ～Ⅳが9割以上）
Ｃ：やや遅れている（Ⅲ～Ⅳが9割未満）
Ｄ：重大な改善事項あり（特に認める場合）

※判断基準は目安であり、小項目数が 10 未満の場合又はその他の合理的な理由がある場合には、Ⅱ以下となった項目の重要性・計画の実施状況等を勘案した上で、評価委員会が総合的に評価し決定する。

《評価結果の記述について》

評価結果の記述は、基本的に以下の考え方に基づいて行った。

（１）全体評価

【評価結果と判断理由】

全体的な取り組み、項目横断的な取り組みを含む業務実績全体を通じての評価結果と判断理由を記述する。

【全体的な実施状況】

①重点的な取り組み及び特筆すべき取り組み

全体的な取り組み、項目横断的な取り組みについて、大学法人が特に重点的に取り組んだ事項を記述するとともに、項目別評価において特筆すべき状況にある主なものについて、客観的な進捗状況等を記述する。

②遅れている取り組み

項目別評価において遅れている状況にある主なものについて、客観的な進捗状況及び遅れていると判断した理由を記述する。

【全体評価にあたっての意見】

業務実績全体を通じての評価、進捗状況の確認を行うにあたり、評価委員会から出された意見や指摘事項について記述する。「実施状況」と重複して記述する項目もあるが、本欄により、大学法人の業務実績において評価委員会として積極的に評価する点、改善すべき点等を明らかにする。

（２）項目別評価

【進捗状況の確認結果】（教育・研究に関する項目）
　その項目全体を通じての進捗状況の確認結果について記述する。

【評価結果】（教育・研究に関する項目以外の項目）
　小項目評価（Ⅳ～Ⅰ）の結果に基づき、その項目の評価（Ｓ～Ｄ）を行う。

【実施状況】

①特筆すべき項目
　小項目評価においてⅣと評価したものやⅢであっても特に評価できるものなど、特筆すべきものについて、客観的な進捗状況等を記述する。

②遅れている項目
　小項目評価においてⅡ・Ⅰと評価したものやⅢであっても課題のあるものなど、遅れているものについて、客観的な進捗状況及び遅れていると判断した理由を記述する。

③これまでに評価委員会から意見のあった項目
　前年度の業務実績評価において評価委員会から意見のあった主な項目について、客観的な進捗状況等を記述する。

④業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目（教育・研究に関する項目以外の項目）
　大学法人による業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目について、評価委員会が異なる評価をした理由を記述する。

【進捗状況の確認にあたっての意見】（教育・研究に関する項目）

【評価にあたっての意見】（教育・研究に関する項目以外の項目）

　各項目等の評価、進捗状況の確認を行うにあたり、評価委員会から出された意見について記述する。「実施状況」と重複して記述する項目もあるが、本欄により、大学法人の業務実績において評価委員会として積極的に評価する点、改善すべき点等を明らかにする。

１　全体評価

公立大学法人名古屋市立大学の第三期中期目標期間の４年目である令和３年度の業務実績は、年度計画を計画どおり遂行しており、全体として中期目標の達成に向け順調に業務を実施しているものと認められる。

特に、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のある中、３病院で連携し、附属病院群として医療提供体制の更なる充実を図ったことは高く評価できる。

【評価結果と判断理由】

１　「Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する項目」のうち、「第１　教育に関する項目」及び「第２　研究に関する項目」については、評価指針及び評価実施要領に従い、専門的な観点からの評価は行わず、大学法人から提出された業務実績報告書に基づき、事業の外形的・客観的な進捗状況を確認した。その結果については、以下のとおりである。

①　「教育に関する項目」については、年度計画を計画どおり実施しているものと認められる。

②　「研究に関する項目」については、年度計画を計画どおり実施しているものと認められる。

２　上記以外の項目について、各項目別評価は、以下の表のとおりである。

評価 ／ 項目名	S 特筆すべき進行状況	A 計画どおり	B おおむね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり
社会貢献		○			
国際化		○			
附属病院	○				
業務運営の改善及び効率化		○			
財務内容の改善		○			
自己点検・評価、情報の提供等	○				
その他の業務運営		○			

３　全体評価としては、「Ⅰ　第１ 教育に関する項目」及び「Ⅰ　第２ 研究に関する項目」の進捗状況とあわせ、令和３年度の年度計画を計画どおり進めており、中期目標を順調に実施しているものと認められる。

大項目においてＣ評価（やや遅れている）やＤ評価（重大な改善事項あり）とする項目はなく、大学法人が真摯に改革に取り組んでいることが認められる。今回の評価結果を活用し、積極的に改革・改善を行うことにより、大学運営全般が一層充実することを期待するものである。

【全体的な実施状況】

①　重点的な取り組み及び特筆すべき取り組み

・データサイエンス学部設置に向けた準備

⇒　AI、IoT やビッグデータを活用し、IT分野、ビジネス分野、医療分野などで活躍する人材の育成と大学全体におけるデータサイエンス教育の充実を目的として、令和５年４月のデータサイエンス学部の設置に向け、学部設置に係る様々な課題（カリキュラム、教員確保、必要経費、設置場所等）を整理、検討するとともに、学部設置に向けた申請の準備を進めた。

・魅力的な公開講座の企画・運営、積極的な情報発信

⇒　新型コロナウイルス感染症の影響により、学びの機会が減少する中、昨年度に引き続き「名市大ブックス」の出版や、市民公開講座の新たなあり方を検討し、受講者ニーズを踏まえた多様な公開講座を開催した。また、日経新聞社「日経グローカル」が、全国の761大学を対象に行った「大学の地域貢献度に関する全国調査2021」の調査の中で、前回の第５位から評価を伸ばし、全国１位となった。

・東部・西部医療センターの大学病院化及び新型コロナウイルス感染症への対応

⇒　令和３年４月より、東部医療センター・西部医療センターが大学病院化されたことに伴い、メディカルスタッフについて、３病院一括で募集・採用試験を実施し、よりよい人材を効率よく確保するとともに、病院間をまたいだ柔軟な人材配置が可能となった。また、新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場へ、３病院より医師・歯科医師・看護師・薬剤師を派遣したほか、東部医療センターにおいては、新たに感染症専用病床を整備し、受入患者の更なる増加に努めた。

・適切かつ有効なメディアを活用した大学広報の推進

⇒　東部医療センター･西部医療センターの大学病院化やデータサイエンス学部の設置に向けて、様々な広報媒体を用いて積極的な広報に努めた。また、積極的な発信を行った結果、マスメディア等での報道実績が令和２年度の4,166件を上回る過去最

高の4,889件となった。

② 遅れている取り組み

特になし

【全体評価にあたっての意見】

令和３年度は、72 にわたる年度計画の項目について、その実施状況を記した「業務実績報告書」に基づき、進捗状況を確認した結果、それぞれの項目に対して法人が積極的かつ誠実に改善に取り組んでいる姿勢が評価できる。今後とも法人をあげて目標の達成に向けて臨むことを期待したい。また、以下では、年度計画全体について、次のように意見する。

１　教育について

時代の潮流や社会のニーズに対応するデータサイエンス学部の設置に向け、様々な課題を整理し、準備をしたことは評価できる。今後は、具体的な卒業後の進路や取得可能な資格等の情報発信を進めるなど、より多くの志願者獲得に向けた取り組みを期待したい。

２　研究について

文部科学省の「先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）」に採択されたことは評価できる。今後プログラムに取り組むことで、研究環境の充実が図られることを期待したい。

３　附属病院について

東部医療センターにおいて、これまでの 32 床に加え、新たに専用病床を整備し、更なる受入患者の増加に努めたことは、市全体の医療に貢献したことであり、高く評価できる。

４　財務内容の改善について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、事業者からの意見を参考に、ウェブサイトに貸付フロー図を記載するなどの工夫を行い、施設貸出しの利用促進に繋げられるよう取り組みを行ったことは評価できる。

5　その他の業務運営について

女性にとって働きやすい職場環境を確立するため、在宅勤務の適用範囲拡大など様々な施策を検討、実施したことは評価できる。今後、その成果が表れ、上位職における女性教職員の割合が増加していくことを期待したい。

6　取り組み全体について

新型コロナウイルス感染症の終息が見込めない中、地域貢献や医療をはじめとした多方面において工夫し、取り組みを進めている。特に、地域医療の更なる充実や経営の効率化等を目指し、東部・西部医療センターの大学病院化を成し遂げたことは高く評価できる。今後、医療提供体制や経営状況等の様々な場面で大学病院化の効果を発揮できるよう取り組んでいただきたい。

２　項目別評価

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する項目

第１　教育に関する項目

【進捗状況の確認結果】

「教育の内容及び教育の成果」、「教育の実施体制等」、「学生への支援」の取り組みについては、年度計画を計画どおり実施しているものと認められる。

【実施状況】

①　特筆すべき項目

・データサイエンス学部設置に向けた準備

⇒　（「１全体評価【全体的な実施状況】①重点的な取り組み及び特筆すべき取り組み（P.6）」参照）

②　遅れている項目

特になし

③　昨年度に評価委員会から意見のあった項目

〇看護学部卒業生の看護実践能力に関する調査・改善策等の検討

⇒　看護実践教育共同センター運営委員会で、看護部と現状について意見交換をした。結果、今後は、学生が実習で病棟カンファレンスに参加する等の方法を積極的に取り入れ、病棟で実際に行われている情報共有の方法を学べるような環境作りを心掛けていくこととなった。

【進捗状況の確認にあたっての意見】

・看護学部における新カリキュラム作成

⇒　令和４年４月の新カリキュラム開始に向け、準備を進めたことは評価できる。医学部附属病院を持つ大学の看護学部としての特色を生かし、新しい医療や看護に対応し、リードできる人材育成に期待したい。

・**大学院の充足率確保に向けた取り組み**

⇒　新たに採択されたプログラムの広報等、志願者を増やすために様々な取り組みを進めていることは評価できる。定員充足率が低下している研究科に対しては、理由を分析し、国内外からの志願者を確保するための取り組みを実施することを期待したい。

・**実務家教員養成プログラムの実施**

⇒　進化型実務家教員養成プログラムの基本コースにおいて、修了生を輩出し、専門コースを新たに開設するなど、順調にプログラムを進めていることは評価できる。引き続き、プログラムの普及・啓発活動を行うとともに、地元経済界との連携に期待したい。

・**データサイエンス学部設置に向けた準備**

⇒　（「１全体評価【全体評価にあたっての意見】（P.7）」参照）

Ⅰ　第２　研究に関する項目

【進捗状況の確認結果】

「研究水準及び研究の成果等」、「研究の推進」の取り組みについては、年度計画を計画どおり実施しているものと認められる。

【実施状況】

①　特筆すべき項目

・「先端研究基盤共用促進事業」の採択

⇒　学部・学科・研究科等の各研究組織で管理されてきた研究設備・機器について各研究組織の機能を統合し、研究機関全体で戦略的に導入・更新・共用する仕組みを構築（コアファシリティ化）する事業（コアファシリティ構築支援プログラム）が文部科学省より公募され、市立大学が公立大学で唯一選定された。

②　遅れている項目

特になし

③　昨年度に評価委員会から意見のあった項目

特になし

【進捗状況の確認にあたっての意見】

・研究費の戦略的配分

⇒　最先端の研究や社会ニーズの高い課題の解決に寄与する研究に対し、研究関連経費を継続して戦略的に配分するよう努めていることは評価できる。

・次世代を担う若手教員・女性教員の研究支援

⇒　若手・女性研究者に対する研究機器利用講習会の開催や、特別研究奨励費の活用等により、研究活動を支援したことは評価できる。今後、より充実した取り組みとなることを期待したい。

Ⅰ　第３　社会貢献に関する項目

【評価結果】

A

（参考）小項目評価

評　価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	0	4	0	0	4

【実施状況】

①　特筆すべき項目

・地域貢献度ランキング　全国１位

⇒　（「１全体評価【全体的な実施状況】①重点的な取り組み及び特筆すべき取り組み（P.6）」参照）

②　遅れている項目

特になし

③　昨年度に評価委員会から意見のあった項目

特になし

④　業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見】

・魅力的な公開講座の企画・運営、積極的な情報発信

⇒　「名市大ブックス」を継続して出版するほか、コロナ禍において市民公開講座を工夫して開催し満足度92.6％を獲得したことは高く評価できる。

Ⅰ　第４　国際化に関する項目

【評価結果】

A

（参考）小項目評価

評　価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	０	６	０	０	６

【実施状況】

①　特筆すべき項目

特になし

②　遅れている項目

特になし

③　昨年度に評価委員会から意見のあった項目

○大学間交流協定の締結及び海外拠点校の設置促進・大学間交流協定校等との留学プログラムの充実

⇒　令和３年度も新型コロナ感染の影響により学生・教職員の渡航を伴う交流活動は中断していたが、交換留学派遣を令和４年２～３月に条件付きで再開した。

令和３年４月にカルガリー大学（カナダ）、10月にタシケント医学アカデミー（ウズベキスタン）、12月にジャウメ１世大学（スペイン）、及び翌４年３月にマレーシア科学大学（マレーシア）、国立台北護理健康大学（台湾）と大学間交流協定を締結し、うち３校とは学生短期派遣研修プログラム実現に向けて協議を進めている。また、令和３年８月25日・26日には第２回NCUアジア拠点校シンポジウムをオンラインで開催し、４拠点校から教員・研究者を含む延べ523名が参加して講演・議論を行った。さらに、精華大学（中国）、ルートヴィクスハーフェン経済大学（ドイツ）、ハサヌディン大学（インドネシア）、貿易大学（ベトナム）開催のオンライン短期研修プログラムに計９名の本学学生が参加した。

④　業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見】

・大学間交流協定の締結及び拠点校設置の促進

⇒　新型コロナウイルス感染症の状況下で、新たに５大学との大学間交流協定を締結したことは評価できる。コロナ禍において、協定締結大学とどのように連携して教育・研究活動が行えるかの検討を進められたい。

Ⅰ　第５　附属病院に関する項目

【評価結果】

S

（参考）小項目評価

評　価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	１	１０	０	０	１１

【実施状況】

①　特筆すべき項目

・医療を取り巻く環境の変化を見据えた体制の整備

⇒　東部・西部医療センターの大学病院化により、名古屋市から依頼された新型コロナウイルスワクチン大規模接種会場への医療従事者派遣について円滑に対応することができたことをはじめ、メディカルスタッフの一括募集・採用試験が実施できるようになり、より良い人材を効率よく確保するとともに柔軟な人員配置が可能となった。また、３病院の医薬品や医療材料の共同購入による経費削減について、持続的な取り組みが可能となる体制を整え、附属病院群として医療提供体制のさらなる充実を図ることができた。

②　遅れている項目

特になし

③　昨年度に評価委員会から意見のあった項目

〇将来の医療需要を見据えた医療提供体制の検討、柔軟な人員配置

⇒　市大病院においては、医療従事者の働き方改革に対応し医師事務作業補助者等の増員を行い、令和３年度からは外来において原則１診療科１名の医師事務作業補助者を配置している。また、働き方改革に対応する委員会で、看護師をはじめとしたメディカルスタッフによる医師業務のタスク・シフティング（医師の仕事の一部を看護師などの他の職種に任せること）を推進している。

④　業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見】

・医療を取り巻く環境の変化を見据えた体制の整備

⇒　東部・西部医療センターの大学病院化を受け、各病院の特性を踏まえて、経営状況に鑑みつつ体制の整備を行っていることは評価できる。

　ただし、大学病院化によってどのような効果を生み出していくのか、という点が重要であり、各病院の強みを生かしつつ、附属病院群が連携することで、より効果的で質の高い医療を提供できるよう取り組んでいくこと。

・東部医療センターにおける新型コロナウイルス感染症対応

⇒　（「１全体評価【全体評価にあたっての意見】（P. 7）」参照）

・電子カルテシステムを利用した医療ビックデータの活用

⇒　電子カルテシステムを利用した医療ビッグデータの活用は、現状手作業で実施している作業の効率を飛躍的に高めることができる可能性を秘めていると思われる。環境整備を十分に行い、成果を挙げられることを期待したい。

・新たな加算の届出等による収益向上

⇒　診療提供体制強化のために医師を増員しつつ、医療従事者の働き方をフォローすることは大切であり、両方に留意し対応していることは評価できる。

Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する項目

【評価結果】

A

（参考）小項目評価

評　価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	0	3	0	0	3

【実施状況】

① 特筆すべき項目

特になし

② 遅れている項目

特になし

③ 昨年度に評価委員会から意見のあった項目

○市立東部・西部医療センターの大学病院化

⇒　３病院間の課題解決や情報共有並びに目標管理を行うことを目的として、令和３年度に新たに３病院マネジメント会議を設置し、令和２年度の大学病院化準備委員会から引き続く部会として以下の６つの部会（うち１つは委員会に変更）を置いている。３病院マネジメント会議において、新たな課題の検討を行うとともに、継続的な検討を行う各部会からの報告を受け、３病院における課題解決等に努めている。

・統括病院情報システム委員会
《令和２年度は「病院情報システムのあり方検討部会」》
・教育部会
・研究推進部会
・医療安全部会
・地域医療連携部会
・調達部会（共同購入の推進等）

④ 業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見】

・職員の育成方針や研修計画の見直しによる専門性の向上及び教職員の意欲向上

⇒　各種研修の受講や資格取得のための経費補助の施策は、職員の専門性の向上及び教職員の意欲向上に繋がるため、評価できる。

・業務の合理化、省力化、定型業務の自動化に向けた取り組み

⇒　会議やセミナーのオンライン開催、紙媒体からシステム利用への変更など、業務の省力化や利便性の向上のため取り組みを行っていることは評価できる。業務の効率化は、職員の働きやすさの向上や組織の強化にも繋がることから、今後も積極的に取り組みを進めることを期待したい。

Ⅲ　財務内容の改善に関する項目

【評価結果】

A

（参考）小項目評価

評　価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	0	7	0	0	7

【実施状況】

① 特筆すべき項目

特になし

② 遅れている項目

特になし

③ 昨年度に評価委員会から意見のあった項目

○契約業務の適切な実施等を目的とした職員研修の開催

⇒　理解の度合いが評価しにくい点については、研修後に研修に関連するテストを実施することにより受講者の理解度の把握に努め、質問する機会が少ない点については、研修後、受講者にアンケートを実施することによりフォローに努めていく。

④ 業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見】

・施設の有償貸出しの利用促進

⇒　（「１全体評価【全体評価にあたっての意見】(P.7)」参照）

・３病院における業務委託の効率化

⇒　東部・西部医療センターの大学病院化後、すぐに３病院の業務の集約化、効率化を進め、一般管理費の圧縮に努めたことは評価できる。引き続き業務の見直しを進められたい。

・資産の管理運用の改善に向けた見直し

⇒　データサイエンス学部の設置や施設再編整備構想を踏まえ、講義室等の有効活用の検討を実施したことは評価できる。アセットマネジメントの観点からも、施設のダウンサイジングは重要であり、大学として面積や稼働率の目標を決めるなど、資産の効率的な管理・運用を進めることを期待したい。

Ⅳ　自己点検・評価、情報の提供等に関する項目

【評価結果】

S

（参考）小項目評価

評　価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	1	1	0	0	2

【実施状況】

① 特筆すべき項目

・適切かつ有効なメディアを活用した大学広報の推進

⇒　（「１全体評価【全体的な実施状況】①重点的な取り組み及び特筆すべき取り組み（P.6）」参照）

② 遅れている項目

特になし

③ 昨年度に評価委員会から意見のあった項目

〇アフターコロナを見据えた取組み

⇒　令和４年度年度計画は、令和３年度年度計画と同様、新型コロナウイルス感染症の影響など社会情勢を考慮して作成した。令和３年度においては、オンラインによる授業実施や学会発表、書籍シリーズ「名市大ブックス」の発行など、教育・研究・社会貢献の新たな取り組みを開始し、定着しつつある。令和４年度も同感染症の影響を受けることが予想されるが、本学に期待される役割を果たせるよう取り組んでいく。

④ 業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見】

・適切かつ有効なメディアを活用した大学広報の推進

⇒　東部・西部医療センターの大学病院化について、様々な広報媒体を活用した広報を実施したほか、国内マスメディアの報道件数が過去最高となったことは高く評価できる。日経 BP コンサルティング主催の「大学スマホサイト・ユーザビリティ調査 2021-2022」においても、前回の 1 位から順位は下がったものの、高順位についており、次年度以降に期待したい。

Ⅴ　その他の業務運営に関する項目

【評価結果】

A

（参考）小項目評価

評　価	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
項目数	0	7	0	0	7

【実施状況】

① 特筆すべき項目

特になし

② 遅れている項目

特になし

③ 昨年度に評価委員会から意見のあった項目

〇ハラスメント防止への意識の向上による、就業環境の改善促進

⇒　本学では、令和２年度をパワハラ対策元年と位置づけ、理事長による「ハラスメント撲滅宣言」の発信や新たに啓発ポスターを作成し、配布するなど、学内教職員への啓発活動に力を入れており、令和３年度は新たに本学のハラスメント相談制度及び窓口を記した、ポケットカードを作成・配布した。次年度も引き続き実施し、相談窓口の周知に努めるとともに、職場のハラスメント問題に関心を持ってもらうことで、ハラスメントのない職場環境づくりにつなげていきたいと考えている。

④ 業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見】

・施設再編整備構想に基づく施設・設備の更なる検討

⇒　滝子・田辺通キャンパス整備の基本計画の策定を着実に進め、魅力的なキャンパス環境が早期に実現されることを期待したい。

・防災意識の向上や学内の安全管理対策の強化

⇒　BCP の内容確認や、マニュアルの更新、防災訓練等を実施しているほか、災害時に必要な備蓄物資の保管状況の確認等も実施していることは、当然すべきことではあるが、評価できる。

・上位職における女性教職員割合向上に向けた取り組み

⇒　（「１全体評価【全体評価にあたっての意見】(P.8)」参照）

３　参考資料

【委員名簿】(50音順)

氏　名	役　職　等
内田　淳正	三重大学　学長顧問
小笠原　剛	（株）三菱ＵＦＪ銀行　顧問
木村　彰吾　☆	国立大学法人東海国立大学機構　機構長補佐 名古屋大学　副総長
近藤　桃子	公認会計士
南部　初世	名古屋大学大学院教育発達科学研究科　教授

☆　委員長

【令和３年度業務実績に関する評価結果に係る評価委員会開催結果（令和４年度)】

・第１回　６月１４日開催
・第２回　７月２２日開催
・第３回　８月２３日開催

【大学法人による自己評価】

項　目　名	小項目評価				
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
Ⅰ　第１ 教育 ※	－	－	－	－	２６
Ⅰ　第２ 研究 ※	－	－	－	－	６
Ⅰ　第３ 社会貢献	０	４	０	０	４
Ⅰ　第４ 国際化	０	６	０	０	６
Ⅰ　第５ 附属病院	１	１０	０	０	１１
Ⅱ　業務運営の改善及び効率化	０	３	０	０	３
Ⅲ　財務内容の改善	０	７	０	０	７
Ⅳ　自己点検・評価、情報の提供等	１	１	０	０	２
Ⅴ　その他の業務運営	０	７	０	０	７
計	２	３８	０	０	７２

※教育研究の特性に配慮し、専門的な観点からの評価は行わず、進捗状況を確認、点検する。